住民主導で仮設商店街

陸前高田・飲食店主ら計画

経済復興の礎に

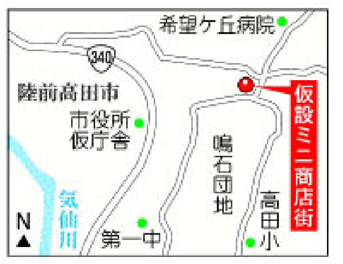
東日本大震災で中心市街地が壊滅状態となった陸前高田市で、地元飲食業者が中心となり「仮設ミニ商店街」をつくる計画が進められている。市内最大の避難所や市役所仮庁舎に近い立地環境に、多様な業種12～14店舗を集める。行政の対応スピードにもよるが10月開業を視野に入れている。市民が憩う買い物拠点として復興のけん引役を目指す。

仮設ミニ商店街の計画を立てる（左から）村上安人さん、佐々木浩さん、太田明成さん＝陸前高田市

「市民が集まる場を」

「人が集まる場所をつくらなければ、若者が地元を離れてしまう」。立ち上がったのは飲食店を経営する太田明成さん（44）＝高田町、村上安人さん（55）＝横田町の仮設住宅、佐々木浩さん（49）＝高田町＝の3人。太田さんが声を掛けた。

商店街は同市高田町の住宅街、鳴石団地から数百㍍の場所に設ける計画。市に借り上げてもらうべく地主との用地交渉も済んでおり、約1千万円かけて約2千平方㍍を造成する。約250人が避難生活を送り、校庭には約150戸の仮設住宅がある第一中や市役所仮庁舎、金融機関からは約1㌔圏内だ。



鮮魚店、包装用品店、理容店などに出店を呼び掛けている。12～14店舗がそれぞれ仮設の建物を持つ構想で駐車場は30～50台。隣接地に大手コンビニエンスストアが出店を検討しており、その用地を含めれば3千平方㍍以上になる。

市有地や市が借り上げた用地に建てる場合、原則無料で仮設店舗を貸し出す中小企業基盤整備機構の事業を活用。出店者の負担は造成費の分割分と内装費程度で済むという。

村上さんが「街がない、仕事がないでは食っていけない。人がいなくなれば店もなくなってしまう」と指摘する通り、3人を突き動かすのは人口流出への懸念だ。

陸前高田商工会によると698会員の約8割が被災。営業を再開する店も出てきたが、立地はまばら。街の構造上、浸水区域を避ければ条件の悪い地域にしか店を再建できず、経営者は用地確保に苦戦を強いられている。

佐々木さんは「住みやすい街にして若い人に希望を持たせたい」と固い決意。太田さんは「何でもそろい、老若男女が楽しめる場所にしたい。10月までの完成が目標」と意気込んでいる。

国労、雇用交渉断念へ

JR不採用問題　24年間の闘争終結

1987年の旧国鉄の分割・民営化に伴う国労組合員のJR不採用問題で、国労執行部は24日、JRに雇用を求める交渉を断念する方針を固めた。30日の中央執行委員会で方針を提起し、7月の定期大会で闘争終結を正式に決定する。24年に及んだ「戦後最大の労働問題」は完全に終結することになる。

国労によると、民主、社民、国民新の3党が今月10日、国労組合員332人のJRへの雇用について国土交通省へ対応を要請。同省はJR各社に協力を求めたが、JR側は13日、一斉に「不採用問題は既に解決済みで、採用を考慮する余地はない」と回答した。

このため、国労執行部は闘争の長期化や組合員の高齢化などから、闘争継続は困難と判断。定期大会では闘争終結と同時に、JRへの雇用を求めていた人は、断念することで組合員の資格も失うと確認する。

不採用問題をめぐっては、解雇された国労組合員らが、地位確認や損害賠償を求め提訴。旧国鉄の債権、債務を引き継いだ鉄道建設・運輸施設整備支援機構側が原告側に約200億円を支払うことなどで昨年6月、最高裁で和解が成立。JRへの雇用が残る課題となっていた。

Ｑ　JR不採用問題

1987年4月の国鉄分割・民営化で、北海道、九州の国労組合員を中心に約7630人がJRに不採用となった。中労委は旧国鉄清算事業団に移り解雇された1047人について、一部を除き選考見直しや採用を命令。JR側が行政訴訟を起こし2003年、最高裁で救済命令取り消しが確定した。解雇された国労組合員らは02年以降、地位確認や損害賠償を求め提訴。10年4月、約200億円の支払いを柱とした和解案を国労側が受け入れ、政府がJR各社への雇用実現について努力することなどを条件に政治決着がなされた。6月に最高裁で和解が成立した。

出資求め2100万円詐取

盛岡東署　北上の容疑の男逮捕

盛岡東署は25日、詐欺の疑いで、北上市川岸3丁目2の11、無職佐々木健一容疑者（62）を逮捕した。

逮捕容疑は、2007年12月ごろから08年11月ごろまでの間、会社設立のための出資金を借りる名目で、盛岡市の男性会社役員（64）から約2100万円をだまし取った疑い。

同署によると佐々木容疑者は、不動産の売却を計画していたこの会社役員に「投資家から出資金を集めて不動産を購入するための会社をつくる。自分も出資しなくてはならない。金が足りないので貸してほしい」などとうそを言って、現金を振り込ませたとされる。

佐々木容疑者と会社役員は顔見知り。佐々木容疑者は「借りただけだ」と述べ、容疑を否認しているという。

母娘死亡、殺人で捜査

大阪・自宅　刺し傷多数

24日午後9時10分ごろ、大阪市平野区加美北8の8の24のマンション「コーポラス加美」2階の一室に住む韓国籍の女性（28）が、妹で派遣社員金裕美さん（27）が血だらけで倒れているのを発見、近くの交番に届けた。警察官が駆け付けると、母親の玉香さん（61）も倒れており、いずれも死亡していた。

2人の遺体に多数の刺し傷と切り傷があり、府警捜査1課は殺人事件として捜査。室内を物色された形跡がなく、裕美さんが5月中旬、何者かに殴られたこともあったことから、交友関係のトラブルがなかったか捜査を進めている。

裕美さんがかつて勤務していた金属加工会社の同僚によると、5月中旬、午後10時に始まる夜勤に向かう途中、男に顔を殴られ、血だらけで職場に現れた。裕美さんは「知らない男だった」と説明。2月か3月にも知らない男にいきなり帽子を奪われた、とも話していたという。

母娘は3人暮らしで、第一発見者の女性が長女、裕美さんは次女。裕美さんはこの日は仕事が休みで、長女が24日午前8時ごろ、仕事に出掛けた際は2人とも無事だった。捜査1課はこの時間以降に襲われたとみて、不審な人物の出入りがなかったか調べている。

裕美さんは台所、玉香さんは和室で、普段着姿で倒れており、着衣に乱れはなかった。ベランダの窓は施錠されており、犯人は玄関から出たとみられる。現場はJR平野駅から約1・5㌔。マンションにオートロックはない。

秋田新幹線と農作業車衝突

秋田・運転男性けが

25日午後1時23分ごろ、秋田県大仙市鑓見内のJR田沢湖線の踏切で、東京発秋田行きの秋田新幹線こまち21号が農作業用の車と衝突し、車を運転していた同市四ツ屋の男性（79）がひじを打つなどのけがをした。列車の乗客と乗員約280人にけがはなかった。

大仙署によると、列車は角館駅から大曲駅に向かう途中で、運転士が踏切内で止まっている車に気付き、非常ブレーキをかけたが間に合わずに衝突した。男性は農作業を終え、帰宅途中だった。

JR秋田支社によると、列車は約1時間後に運転を再開。盛岡―秋田間で上下1本ずつ運休したほか、計3本が1時間前後遅れ、約1090人に影響が出た。

車損壊容疑

米兵を逮捕　沖縄

沖縄県警沖縄署は25日、通り掛かった車を蹴りつけてドアをへこませたとして、器物損壊容疑で在沖縄米陸軍兵のジェームス・ディディマー容疑者（28）を逮捕した。容疑を否認している。

逮捕容疑は、25日午前7時半ごろ、沖縄市中央2丁目の市道で、同県読谷村の男性が所有する乗用車を蹴り、運転席側のドアを破損させた疑い。

ナンバー窃盗容疑

実行役2人再逮捕

東京・6億円強奪

東京都立川市の「日月警備保障立川営業所」から現金約6億円が強奪された事件で、警視庁立川署捜査本部は25日、ナンバープレートを盗んだ窃盗の疑いで渡辺豊容疑者（41）と植木秀明容疑者（31）を再逮捕した。

捜査本部は、2人が事件の約1時間前にナンバーを盗み、乗っていた車両のナンバーと営業所近くで付け替え、強奪後、高速道路を出入りしながら逃走する間に元に戻したとみている。渡辺容疑者は「植木容疑者と一緒に盗んだ」と容疑を認めているが、植木容疑者は認否を明らかにしていない。

2人の再逮捕容疑は5月12日未明、八王子市小宮町の中古車販売店の駐車場で、普通乗用車のナンバー2枚を盗んだ疑い。

事件で捜査本部は渡辺容疑者ら5人を逮捕。ほかに関与したとみられる暴力団関係者数人も特定して行方を追っている。

渡辺、植木両容疑者は既に強盗傷害などの罪で起訴されている。

ニュースファイル

◆**駐車中の車から出火**　24日午後9時15分ごろ、奥州市水沢区佐倉河の駐車場に止まっていた乗用車＝同市前沢区白山字蘩長4、会社員菊地将さん（21）所有＝の左前部から出火、前照灯などを焼いた。原因調査中。

（水沢署調べ）

◆**大雨でJR線に運休や遅れ**　JR北上線と山田線は25日、24日の大雨の影響で一時、速度を規制した。北上線が上下7本、山田線は4本が運休したほか遅れも相次ぎ、計約330人の足が乱れた。

（JR盛岡支社調べ）

復活の慰問公演でシットギ獅子を勇壮に舞う黒森神楽衆＝宮古市田老・グリーンピア三陸みやこ

勇壮な舞復活　避難所に元気

宮古・黒森神楽が公演

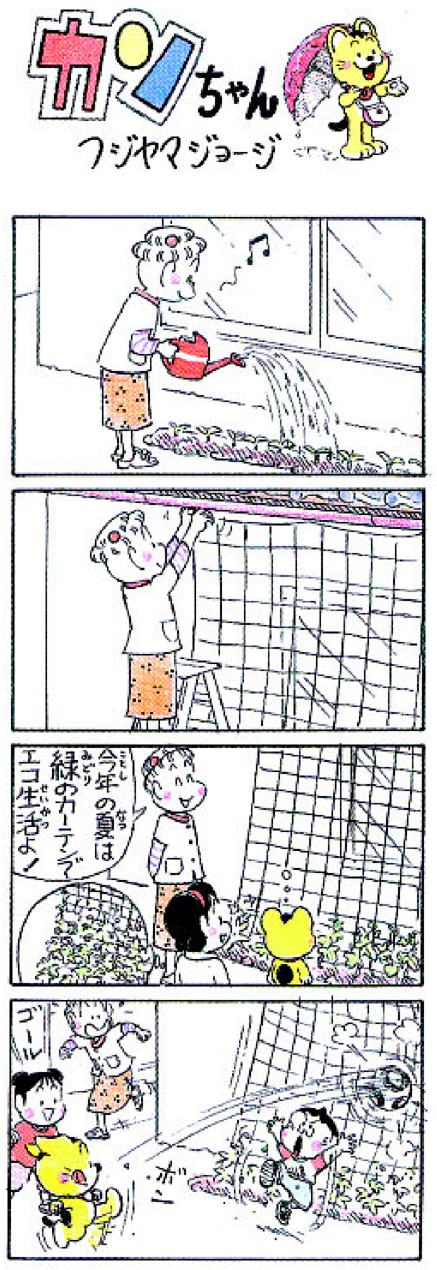
宮古市の黒森神社に本拠を置く国重要無形民俗文化財の黒森神楽（前川市平胴取、14人）は25日、東日本大震災の避難所と仮設住宅団地になっている同市田老のグリーンピア三陸みやこで慰問公演を行い「復活」を果たした。

神楽衆が勢いのあるはやしを響かせながら、縁起の良いシットギ獅子を展開。ショシャ舞や権現舞も披露した。

集まった約200人は、鼻筋や額に米粉を溶いた水でしるしを付ける「おまぶり」や、獅子頭に体の一部をかんでもらう「身固め」の儀式で御利益を授かり、笑顔の輪が広がった。

北上市村崎野から仮設住宅の祖母を見舞いに訪れた3歳の双子小向慎也ちゃん、琉衣ちゃんは「（身固めが）ちょっと怖かったけど面白かった」とはにかんだ。

グリーンピアは5年前の同日、同文化財指定を祝う公演を行った思い出の地でもあり、前川胴取は「みんな元気で復活できて良かった。ますます勉強し良い舞を見せたい」と飛躍を誓った。


カンちゃん
フジヤマジョージ
今年の夏は緑のカーテンでエコ生活よ！
ゴール
ボン

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。